

見積用設計図書に関する質問及び回答

業 務 名	カーボンクレジット調査低コスト化検討業務		
質 問 年 月 日	令和 8年 4月 28日	回 答 年 月 日	令和 8年 4月 28日
質 問 者	所 属		
	氏 名		
	電 話 番 号		
	F A X 番 号		
<p>【質問事項】 特記仕様書の「2-3藻場調査（5）調査方法」について</p> <ol style="list-style-type: none"> 「自動航行及び計測が可能な水中ドローン」との記載がありますが、一般的な有線制御の水中ドローン（自動航行はできない）ではなく、航行ルートの設定により自動航行するような機器を想定しているのでしょうか？ 「計測」とは具体的にどのような計測を想定しているのでしょうか？ 「藻場の画像解析及びAI判読により手作業により個別処理を前提としない一連の処理フローの連続値としての定量化を行うとともに、〜〜」と記載がありますが、画像解析とはSfm/MVSをイメージしたものでしょうか？ AI判読とは撮影動画または、モザイク画像を汎用的な画像認識AI（独自開発・機械学習させたものではない）に入力して、被度測定・藻類同定を行うことを想定したものでしょうか？ 「画像解析等により分布面積及び被度を藻種ごとに自動算定できるもの」と記載がありますが、水中ドローンの撮影データから、自動的にオルソ処理を行ったうえで主要藻種の面積・被度を自動算定する手法を想定したものでしょうか？また、調査ライン上の撮影画角以外の範囲については算定対象外と考えて良いのでしょうか？ <p>【回 答】 質問に対する回答は次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 航行ルートの設定により自動航行するような機器を想定しております。 対象藻場を構成する主要な藻種について、分布面積・被度を藻種単位毎に計測すること。 ご指摘のとおり。 富士通の開発した海洋デジタルツイン技術と同等以上の技術を想定しています。 前段は、ご指摘の通り。後段は、UAV調査との組合せ等により撮影画角以外の分布面積を可能な範囲で算定することを想定しています。 			